

CUSTOM CONTROLLER

S63 シリーズ ユーザーズマニュアル(補足)

目次

はじめに	1
1. BIOS 設定画面	2
1-1. BIOS 設定画面の表示	2
1-2. BIOS 設定画面の操作方法	2
1-3. BIOS 設定画面の保存・終了	3
2. 出荷時状態に戻す(システムリカバリー)	4
2-1. BIOS 設定の出荷時設定化	5
2-2. リカバリーディスクによるシステムリカバリー	6
3. 機能を使う	9
3-1. 商用電源供給開始時に自動的に本製品を起動させる	9
3-2. USB 2.0 ポートによる電源投入を設定する	10
3-3. 拡張スロットと拡張ボードの整合性を調整する	11
3-4. グラフィックスボードとの整合性を調整する	16
3-5. 2.5 インチ SSD の整合性を調整する	17
3-6. M.2 スロットと M.2 SSD の整合性を調整する	18
3-7. M.2 SSD の接続状態を見る	19
4. 製品のコネクタ	20
4-1. I/O パネルのコネクタ	20
4-2. 内部のコネクタ	21
5. トラブルシューティング	23

はじめに

- 本書の内容に関してについては万全を期しておりますが、万が一不審の点がございましたら、弊社テクニカルサポートまでご連絡願います。
- 本書で指定された設定以外にした場合は動作保証外となる場合があります。
- 本書を運用した結果による損失、利益の逸失の請求等につきましては、前項に関わらず弊社ではいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- 本書に記載されている製品型番、ソフトウェアなどのバージョンや画面表示などは、作成した時点の情報です。最新情報については、弊社テクニカルサポートまでお問い合わせください。
- カスタムコントローラ製品の場合、本書では、お客様のカスタムコントローラに搭載されていないハードウェア部品（拡張ボードなど）の記述が含まれている場合がございます。また、一部のハードウェア部品には別途ドライバーソフトのインストール、またはアプリケーションソフトのインストールが必要な場合がございます。リカバリー後に付属の製品仕様書やその他の取扱説明書をご確認ください。
- 本書及びリカバリーディスクは、日本語表示を基本にしています。

Sorry. A RecoveryDisc and this reference manual are available in Japanese only.

1. BIOS 設定画面

本製品に接続された機器やストレージ等の管理や制御を、Windows が起動する前の段階で BIOS が行います。本製品の一部の機能や操作は Windows 上では設定できず、BIOS 設定画面での設定が必要です。

ここでは、BIOS 設定を行う BIOS 設定画面の操作について説明します。BIOS 画面の操作は基本的にキーボードで行います。

1-1. BIOS 設定画面の表示

BIOS 設定画面を表示するには本製品の電源投入直後、または再起動直後の操作が必要です。

電源投入直後、または再起動直後に [Delete] キーを押します。

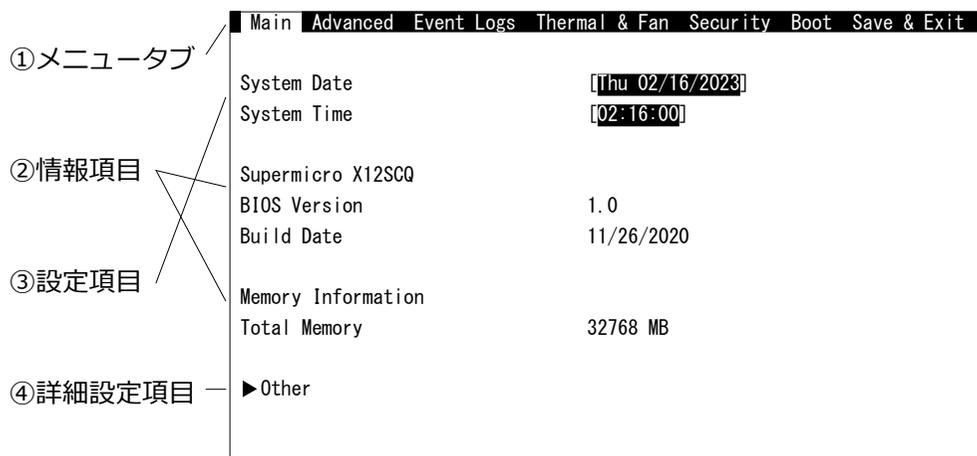


BIOS 設定画面が表示されない場合があります。Windows が起動した場合は再起動し、再度試みてください。



1-2. BIOS 設定画面の操作方法

BIOS 設定画面の操作方法について説明します。



①メニュータブ

[←] キーや [→] キーでメニューを切り替えます。
後述の④詳細設定項目を表示している場合を除きます。

②情報項目

現在の設定値を表示します。
黒色文字や灰色文字で表示されていれば変更できません。

③設定項目

現在の設定値を表示していますが、設定（変更）が可能な項目です。
[←] [↑] [↓] [→] キー、[Tab] キーなどで設定したい箇所を示してから [+] キーや [-] キーで値を変更します。設定項目が数値であれば、数字キーによる入力も可能です。
項目によっては [Enter] キーにより選択肢が表示されます。[↑] キーや [↓] キーで選択し、[Enter] キーを押して確定させます。

④詳細設定項目

行頭に▶が付いている項目は詳細設定が可能です。
詳細設定項目を選択し、[Enter] キーを押すと詳細設定画面に移行します。
詳細設定画面で [Esc] キーを押すと、詳細設定項目が表示されていた画面に戻ります。

1-3. BIOS 設定画面の保存・終了

BIOS の設定値を変更しても、設定を保存して再起動するまで設定内容が反映されません。BIOS 設定後の保存方法について説明します。

- 1) BIOS 設定画面の「Save & Exit」メニューに移動します。
- 2) 設定項目の「Save Changes And Reset」を選択して [Enter] キーを押します。
- 3) 確認画面が表示されますので「Yes」を選択して [Enter] キーを押します。

以上で BIOS 設定内容が保存され、本製品が再起動します。

2. 出荷時状態に戻す (システムリカバリー)

ここでは本製品を開梱直後の状態に戻す方法を説明します。出荷時状態に戻す事が必要な場合は本項に沿って実施してください。本製品を出荷時状態にするには、BIOS 設定とシステムリカバリーの両者が必要です。

BIOS 画面の操作は基本的にキーボードで行います。「2-2. リカバリーディスクによるシステムリカバリー」はキーボードで行い、一部はマウスでも操作できます。

ポイント

- BIOS 設定のみ行う場合には、リカバリーディスクは必要ありません。システムリカバリーを行う場合には、リカバリーディスクを光ディスクドライブにセットしてください。
 - システムリカバリーには光ディスクドライブが必要です。光ディスクドライブを搭載していない場合には、USB 接続の光ディスクドライブをご用意ください。
 - システムリカバリーは、内蔵ストレージにインストールされている Windows およびその他のデータを削除します。必要なデータファイルなどはあらかじめバックアップするようお願いします。
起動ドライブを領域分割していても、領域に関わらずシステムリカバリー時に消去します。
 - 本製品に付属のリカバリーディスクは、本製品に対してのみお使いいただけます。
 - 新たに接続した拡張ボードなどがございましたら、システムリカバリーの前に取り外してください。
 - システムリカバリー完了後、必要に応じ Windows Update 等でセキュリティ対策を実施してください。
-

2-1. BIOS 設定の出荷時設定化

購入してから本製品の BIOS 設定を変更したことが無いことが明らかな場合は本項の操作は不要です。BIOS 設定画面の操作方法は「1. BIOS 設定画面」を参照ください。

- 1) BIOS 設定画面を表示します。「1-1. BIOS 設定画面の表示」を参照ください。
- 2) BIOS 設定画面の「Save & Exit」メニューの「Load Optimized Default」を選択し、[Enter] キーを押します。
- 3) 確認画面が表示されますので、「Yes」を選択して [Enter] キーを押します。
- 4) BIOS 設定画面で次表設定項目を設定値項の値に変更します。

メニュータブ	設定項目 / 詳細設定項目	項目	設定値	説明
Main	System Date		本日の日付	
	System Time		現在の時刻	
Advanced	CPU Configuration	Intel(R) SpeedStep(tm)	Disabled	
		Intel(R) Speed Shift Technology	Disabled	
		Power Limit 2 Override	Disabled	
		C-States	Disabled	
Boot	Boot Option #1		UEFI CD/DVD	※ 1
	Boot Option #2		UEFI Hard Disk: Windows Boot Manager	※ 2

※ 1: 光ディスクドライブに UEFI 対応ディスクがセットされている状態であれば行頭に「UEFI」と表示されます。USB 接続の光ディスクドライブをお使いの場合は表示名の行頭に「USB」が付記された USB 機器を選択ください。

※ 2: 「UEFI Hard Disk: Windows Boot Manager」は既に Windows がインストールされた状態です。5) 項で説明します。

- 5) 設定値に「UEFI Hard Disk: Windows Boot Manager」が表示されない場合は、Windows がインストールされていないか、6) 項で設定後に再設定ください。Windows がインストールされていない場合はここでは設定不要です。7) 項へ。
- 6) BIOS 設定画面で次表設定項目を設定値項の値に変更します。

メニュータブ	設定項目 / 詳細設定項目	設定値	説明
Boot	UEFI Hard Disk Drive BBS Priorities	Windows Boot Manager	

- 7) BIOS 設定内容を保存します。「1-3. BIOS 設定画面の保存・終了」を参照ください。

2-2. リカバリーディスクによるシステムリカバリー

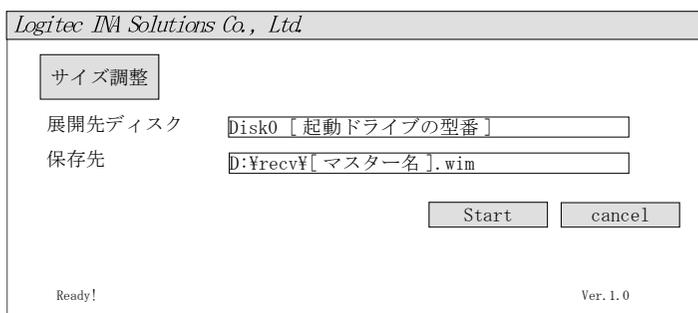
以下の手順でリカバリーします。

- 1) お客様が拡張ボードなどを増設している場合には、それらを一旦取り外します。
システムリカバリーには光ディスクドライブが必要です。光ディスクドライブを搭載していない場合には、USB 接続の光ディスクドライブを接続します。
- 2) 「M.2 SSD」へリカバリーする場合は光ディスクドライブを除く、全ての SATA 接続機器を外してください。
- 3) 本製品の電源を ON（入）にします。
- 4) リカバリーディスクを光ディスクドライブにセットします。
リカバリーディスクが 2 枚組以上の場合は、ディスクの右側に対象の Disc 番号と総数が記載されていますので、1 枚目のディスクをセットします。例えば 2 枚組の場合は「Disc 1/2」と記載されたディスクをセットします。
- 5) リカバリーディスクによる「Press any key to boot from CD or DVD」のメッセージが画面左上に表示されたら、すぐに任意のキーを押します。

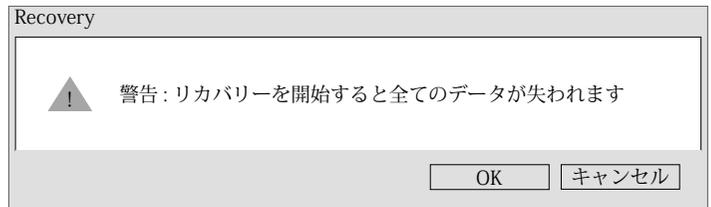
Press any key to boot from CD or DVD.

！ ポイント

- しばらくするとシステムリカバリー画面が表示されます。システムリカバリーの画面が表示されない場合は、再起動してください。
- お使いのディスプレイ（モニター）の解像度などの要因により、システムリカバリー画面が小さく表示されたり、大きく表示されたりします。その場合は [サイズ調整] ボタンを押して（クリックして）見易く調整ください。
- [サイズ調整] ボタンが表示されない場合は解像度調整できません。

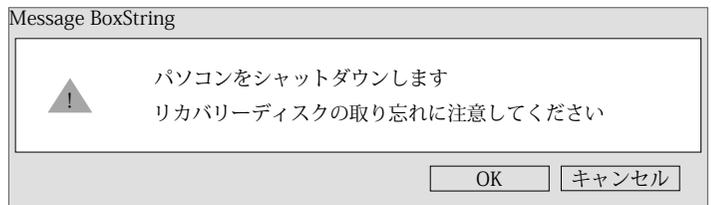


- 6) [Start] ボタンをクリックして、リカバリーを実行します。
- 7) 警告ウインドウが表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。
警告ウインドウ表示が英語の場合があります。
「Warning: All data in selected Disk will be formatted and lost.」
中止するには [キャンセル] ボタンをクリックし、画面の指示に従います。



- 8) リカバリーが進行します。しばらくお待ちください。
- 9) リカバリーが完了するとメッセージが表示されます。
リカバリーディスクが複数枚の場合は完了メッセージではなく、ディスクの交換メッセージを表示します。例えば 2 枚組の場合は「Disc 2/2」をセットし、[OK] ボタンをクリックします。2 枚組以上の場合はこれを繰り返します。

完了メッセージ



交換メッセージ
(2 枚目の場合)



- 10) リカバリーディスクを取り外し、光ディスクドライブのトレイを閉じます。
- 11) [OK] ボタンをクリックすると、自動的に電源が切断されます。
カスタム仕様によっては、電源が自動切断されません。このような場合、電源スイッチを押して電源を切断してください。
- 12) 電源が完全に切断されてから 30 秒以上お待ちください。

- 13) 本製品の電源を ON (入) にし、「2-1. BIOS 設定の出荷時設定化」を再度設定ください。
- 14) 再起動すると Windows のセットアップが始まります。画面の指示に従ってセットアップします。

ポイント

- リカバリー直後の Windows は、機能の一部が制限されている場合があります。機能を有効にするために、2 回ほど再起動してください。
 - Windows 10 の起動時、シャットダウン時の背景色について
初回～ 2 回目の起動時及びシャットダウン時において、背景色に変化する場合があります。この挙動は Windows 10 の仕様上の制約であり、設定が変更されたわけではありません。複数回再起動を実施することで、色に変化した背景色が元に戻ります。
-

- 15) Windows が起動している状態で、LAN ケーブルを接続し、インターネットに接続します。接続してしばらくすると Windows のライセンス認証が完了します。

ポイント

ライセンス認証が正常に行えない場合は、「ファイル名を指定して実行」から「slui.exe 4」を実行します。その後、Windows の画面の指示に従ってライセンス認証します。

- 16) 取り外した機器があれば元通り取り付けます。
複数の機器を一斉に取り付けずに 1 つずつ取り付けますと、デバイスドライバーのインストールなどが滞りなく行えます。拡張ボードなどの増設機器はデバイスドライバーのインストールが必要です。又、増設機器によりドライバーのインストール方法が異なります。増設機器のマニュアルをご覧ください。ドライバーのインストールを行ってください。本書では説明していません。

ポイント

増設機器や、その他のアプリケーションでも、ライセンス認証が必要な場合がございます。それらのマニュアルをご覧ください。本書では説明していません。

3. 機能を使う

本製品の一部の機能や操作は Windows 上では設定できず、BIOS 設定画面での設定が必要です。

3-1. 商用電源供給開始時に自動的に本製品を起動させる

商用電源供給開始時に自動的に本製品の電源が ON（入）にする設定について説明します。本機能により停電からの復旧時等やブレーカーと連動して自動的に本製品を起動させることができます。

- 1) BIOS 設定画面を表示します。「1-1. BIOS 設定画面の表示」を参照ください。
- 2) 次表設定項目を設定値項の値に変更します。

メニュータブ	設定項目 / 詳細設定項目	項目	設定値	説明
Advanced	Boot Feature	Restore on AC Power Loss	Power On	※ 3

- ※ 3: [Stay Off] 電源スイッチで電源投入します。
[Power On] メイン電源スイッチやブレーカーで電源投入します。
[Last State] Stay Off と Power On のどちらの状態も有しており、電源切断方法に応じて、次の電源投入方法が決まります。出荷時の設定です。
カスタム仕様により、設定項目が「AC Loss Policy Depend On」と表示される場合があります。

- 3) BIOS 設定内容を保存します。「1-3. BIOS 設定画面の保存・終了」を参照ください。
- 4) Windows を起動します。
- 5) Windows をシャットダウンします。

以上で準備が整いました。

ポイント

- ブレーカーと連動させるためには、メイン電源スイッチを ON（入）に設定しておきます。（メイン電源スイッチが有る製品のみ）
- 設定を変更しても即座に反映されません。設定変後は必ず正しいシャットダウンを行ってください。以降、設定した電源投入方法が機能します。
- 商用電源の切断後 30 秒以上経ってから供給してください。切断時間が短い場合には機能しません。

3-2. USB 2.0 ポートによる電源投入を設定する

Windows をシャットダウンした状態から、USB マウスや USB キーボードを操作することで本製品の電源が ON（入）する機能について、有効化 / 無効化を設定可能です。

ポイント

- USB 2.0 ポートに接続した場合です。マウスやキーボードに限定しません。
- 「4-1. I/O パネルのコネクタ」の USB 2.0 ポートに限定しません。製品仕様によっては製品前面の USB 2.0 ポートも含まれます。
- カスタム仕様により、以下の設定項目が表示されない場合があります。この場合は常に有効（Enabled）です。

1) BIOS 設定画面を表示します。「1-1. BIOS 設定画面の表示」を参照ください。

2) 次表設定項目を設定値項の値に変更します。

メニュータブ	設定項目 / 詳細設定項目	項目	設定値	説明
Advanced	USB Configuration	USB S5 Wakeup Support	Enabled	※ 4

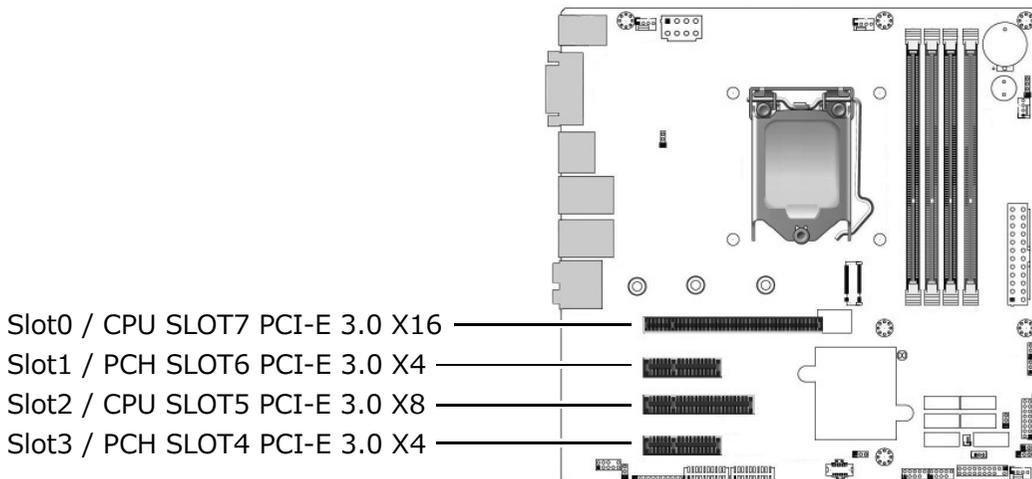
※ 4: 出荷時の設定は「Enabled」です。

「Enabled」が有効、「Disabled」が無効です。

3) BIOS 設定内容を保存します。「1-3. BIOS 設定画面の保存・終了」を参照ください。

3-3. 拡張スロットと拡張ボードの整合性を調整する

本製品の拡張スロットは PCI Express 3.0 です。下位互換性を持ち合わせていますが、拡張ボードによっては上位規格の設定のままですと正しく動作しない場合があります。このような拡張ボードは拡張スロットの規格上限を変更するなどの調整を行うことで回避できる場合があります。



! ポイント

PCI Express 3.0 x16 と PCI Express 3.0 x8 の 2 つの拡張スロットには、合計レーン数（リンク幅）16 の制限があります。x16/NA または x8/x8 のどちらかです。（NA: お使いいただけません。）

Slot0 / CPU SLOT7 PCI Express 3.0 x16 だけの使用時は x16 上限動作。
Slot2 / CPU SLOT5 PCI Express 3.0 x8 NA: お使いいただけません。

Slot0 / CPU SLOT7 PCI Express 3.0 x16 同時使用時は x8 上限動作。
Slot2 / CPU SLOT5 PCI Express 3.0 x8 同時使用時は x8 上限動作。

■ Slot0 / CPU SLOT7 PCI Express 3.0 x16

- 1) BIOS 設定画面を表示します。「1-1. BIOS 設定画面の表示」を参照ください。
- 2) 次表設定項目を設定値項の値を参考に調整します。
下記の「Max Link Speed」項を調整設定してから拡張ボードを接続します。
接続後に「Max Link Width」項で調整設定します。

メニュータブ	設定項目 / 詳細設定項目	項目	設定値	説明
Advanced	Chipset Configuration →▶ System Agent (SA) Configuration →▶ PEG Port Configuration → CPU SLOT7 PCI-E 3.0 X16	Max Link Speed	Auto	※ 5
		Max Link Width	Auto	※ 6
	PCIe/PCI/PnP Configuration	CPU SLOT7 PCI-E 3.0 X16 OPROM	EFI	※ 7

※ 5: 拡張ボードに合わせた 1 レーン当たりの最大転送レートを設定する項目です。

[Auto] 以下の転送レートから自動設定します。出荷時の設定です。

[Gen3] 8.0GT/s を上限設定します。

[Gen2] 5.0GT/s を上限設定します。

[Gen1] 2.5GT/s を上限設定します。

※ 6: 拡張ボード接続時のみ表示する設定項目です。拡張ボードに合わせたレーン数（リンク幅）を設定します。カスタム仕様により、この設定項目が表示されない場合があります。この場合は以下の [Auto] と同じです。

[Auto] x16 を上限とし、以下のリンク幅から自動設定します。

出荷時の設定です。

[Force X8] x8 を上限設定します。

[Force X4] x4 を上限設定します。

[Force X2] x2 を上限設定します。

[Force X1] x1 を上限設定します。

※ 7: 拡張ボードの OPROM を制御する設定項目です。

[EFI] 有効です。出荷時の設定です。

[Disabled] 無効です。

- 3) BIOS 設定内容を保存します。「1-3. BIOS 設定画面の保存・終了」を参照ください。

■ Slot1 / PCH SLOT6 PCI Express 3.0 x4

- 1) BIOS 設定画面を表示します。「1-1. BIOS 設定画面の表示」を参照ください。
- 2) 次表設定項目を設定値項の値を参考に調整します。

メニュータブ	設定項目 / 詳細設定項目	項目	設定値	説明
Advanced	PCIe/PCI/PnP Configuration	PCH SLOT6 PCI-E 3.0 X4 OPROM	EFI	※ 8

※ 8: 拡張ボードの OPROM を制御する設定項目です。

[EFI] 有効です。出荷時の設定です。

[Disabled] 無効です。

- 3) BIOS 設定内容を保存します。「1-3. BIOS 設定画面の保存・終了」を参照ください。

■ Slot2 / CPU SLOT5 PCI Express 3.0 x8

- 1) BIOS 設定画面を表示します。「1-1. BIOS 設定画面の表示」を参照ください。
- 2) 次表設定項目を設定値項の値を参考に調整します。
下記の「Max Link Speed」項を調整設定してから拡張ボードを接続します。
接続後に「Max Link Width」項で調整設定します。

メニュータブ	設定項目 / 詳細設定項目	項目	設定値	説明
Advanced	Chipset Configuration →▶ System Agent (SA) Configuration →▶ PEG Port Configuration → CPU SLOT5 PCI-E 3.0 X8	Max Link Speed	Auto	※ 9
		Max Link Width	Auto	※ 10
	PCIe/PCI/PnP Configuration	CPU SLOT5 PCI-E 3.0 X8 OPROM	EFI	※ 11

※ 9: 拡張ボードに合わせた 1 レーン当たりの最大転送レートを設定する項目です。

[Auto] 以下の転送レートから自動設定します。出荷時の設定です。

[Gen3] 8.0GT/s を上限設定します。

[Gen2] 5.0GT/s を上限設定します。

[Gen1] 2.5GT/s を上限設定します。

※ 10: 拡張ボード接続時のみ表示する設定項目です。拡張ボードに合わせたレーン数（リンク幅）を設定します。カスタム仕様により、この設定項目が表示されない場合があります。この場合は以下の [Auto] と同じです。

[Auto] x8 を上限とし、以下のリンク幅から自動設定します。
出荷時の設定です。

[Force X4] x4 を上限設定します。

[Force X2] x2 を上限設定します。

[Force X1] x1 を上限設定します。

※ 11: 拡張ボードの OPROM を制御する設定項目です。

[EFI] 有効です。出荷時の設定です。

[Disabled] 無効です。

- 3) BIOS 設定内容を保存します。「1-3. BIOS 設定画面の保存・終了」を参照ください。

■ Slot3 / PCH SLOT4 PCI Express 3.0 x4

- 1) BIOS 設定画面を表示します。「1-1. BIOS 設定画面の表示」を参照ください。
- 2) 次表設定項目を設定値項の値を参考に調整します。

メニュータブ	設定項目 / 詳細設定項目	項目	設定値	説明
Advanced	Chipset Configuration →▶PCH-IO Configuration →▶PCI Express Configuration →▶PCH SLOT4 PCI-E 3.0 X4 (IN X8)	PCIe Speed	Auto	※ 12
	PCIe/PCI/PnP Configuration	PCH SLOT4 PCI-E 3.0 X4 OPROM	EFI	※ 13

※ 12: 拡張ボードに合わせた 1 レーン当たりの最大転送レートを設定する項目です。

[Auto] 以下の転送レートから自動設定します。出荷時の設定です。

[Gen3] 8.0GT/s を上限設定します。

[Gen2] 5.0GT/s を上限設定します。

[Gen1] 2.5GT/s を上限設定します。

※ 13: 拡張ボードの OPROM を制御する設定項目です。

[EFI] 有効です。出荷時の設定です。

[Disabled] 無効です。

- 3) BIOS 設定内容を保存します。「1-3. BIOS 設定画面の保存・終了」を参照ください。



ポイント

全ての PCI Express 拡張ボードの動作を保証するものではありません。

3-4. グラフィックスボードとの整合性を調整する

グラフィックスボードをお使いの場合に設定します。

- 1) BIOS 設定画面を表示します。「1-1. BIOS 設定画面の表示」を参照ください。
- 2) 次表設定項目を設定値項の値に設定します。グラフィックスボードを接続している場合に限りです。

メニュータブ	設定項目 / 詳細設定項目	項目	設定値	説明
Advanced	Chipset Configuration →▶ System Agent (SA) Configuration →▶ Graphics Configuration	Internal Graphics	Disabled	※ 14

※ 14: マザーボードのグラフィックス出力を設定する項目です。

[Auto] グラフィックスボードを接続した場合に、製品が持つグラフィックス出力機能を自動的に無効化します。

グラフィックスボードを接続していない場合の出荷時の設定です。

[Disabled] 製品が持つグラフィックス出力機能を無効化します。

グラフィックスボードを接続している場合の出荷時の設定です。

[Enabled] 製品が持つグラフィックス出力機能を有効化します。

グラフィックスボードの有無に関わらず有効ですので、製品が持つグラフィックス機能とグラフィックスボードが競合する恐れがあります。同時使用する場合は十分に検証ください。**動作を保証するものではありません。**

- 3) BIOS 設定内容を保存します。「1-3. BIOS 設定画面の保存・終了」を参照ください。

3-5. 2.5 インチ SSD の整合性を調整する

2.5 インチ SSD をお使いの場合に設定します。

- 1) BIOS 設定画面を表示します。「1-1. BIOS 設定画面の表示」を参照ください。
- 2) 次表設定項目を設定値項の値に設定します。2.5 インチ SSD を接続している場合に限ります。

メニュータブ	設定項目 / 詳細設定項目	項目	設定値	説明
Advanced	SATA And RST Configuration	SATA0	接続機器の型番	
	SATA And RST Configuration → SATA0	SATA Device Type	Solid State Drive	※ 15
	SATA And RST Configuration	SATA1	接続機器の型番	
	SATA And RST Configuration → SATA1	SATA Device Type	Solid State Drive	※ 15
	SATA And RST Configuration	SATA2	接続機器の型番	
	SATA And RST Configuration → SATA2	SATA Device Type	Solid State Drive	※ 15
	SATA And RST Configuration	SATA3	接続機器の型番	
	SATA And RST Configuration → SATA3	SATA Device Type	Hard Disk Drive	※ 15
	SATA And RST Configuration	SATA4	Empty	※ 16
	SATA And RST Configuration → SATA4	SATA Device Type	Hard Disk Drive	※ 15
	SATA And RST Configuration	SATA5	Empty	※ 16
	SATA And RST Configuration → SATA5	SATA Device Type	Hard Disk Drive	※ 15

※ 15: 出荷時の設定は SSD であれば「Solid State Drive」、それ以外であれば「Hard Disk Drive」です。RAID ボードや RAID ユニットをお使いの場合も「Hard Disk Drive」に設定します。

※ 16: 未接続の場合には「Empty」と表示します。

- 3) BIOS 設定内容を保存します。「1-3. BIOS 設定画面の保存・終了」を参照ください。

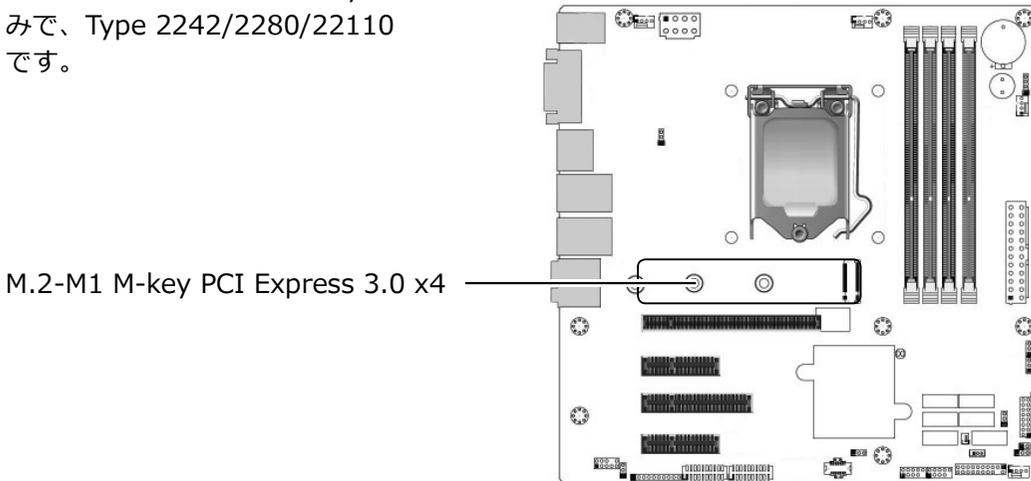
ポイント

2.5 インチではない「M.2 SSD」は、SATA インターフェースに接続していないため、この設定項目には表示されません。「3-7. M.2 SSD の接続状態を見る」を参照ください。

3-6. M.2 スロットと M.2 SSD の整合性を調整する

本製品の M.2 スロットは PCI Express 3.0 x4 インターフェース（による接続）を用いています。下位互換性を持ち合わせていますが、M.2 SSD によっては上位規格の設定のままですと正しく動作しない場合があります。このような M.2 SSD は M.2 スロットの規格上限を変更するなどの調整を行うことで回避できる場合があります。

また、M.2 スロットに接続可能な SSD は PCIe (NVMe) M-key のみで、Type 2242/2280/22110 です。



■ M.2-M1 M-key PCI Express 3.0 x4

- 1) BIOS 設定画面を表示します。「1-1. BIOS 設定画面の表示」を参照ください。
- 2) 次表設定項目を設定値項の値を参考に調整します。

メニュータブ	設定項目 / 詳細設定項目	項目	設定値	説明
Advanced	Chipset Configuration →▶PCH-IO Configuration →▶PCI Express Configuration →▶PCI Express Port 21	PCIe Speed	Auto	※ 17
	PCIe/PCI/PnP Configuration	PCI-E M.2-M1 OPRM	EFI	※ 18

※ 17: M.2 SSD に合わせた 1 レーン当たりの最大転送レートを設定する項目です。

[Auto] 以下の転送レートから自動設定します。出荷時の設定です。

[Gen3] 8.0GT/s を上限設定します。

[Gen2] 5.0GT/s を上限設定します。

[Gen1] 2.5GT/s を上限設定します。

※ 18: M.2 SSD の OPRM を制御する設定項目です。

[EFI] 有効です。出荷時の設定です。

[Disabled] 無効です。

- 3) BIOS 設定内容を保存します。「1-3. BIOS 設定画面の保存・終了」を参照ください。

3-7. M.2 SSD の接続状態を見る

M.2 SSD は SATA インターフェースに接続しないため、「3-5. 2.5 インチ SSD の整合性を調整する」に表示されません。M.2 SSD が接続済みで正常であれば、以下で見ることができます。ここでの設定項目はありません。設定項目については「3-6. M.2 スロットと M.2 SSD の整合性を調整する」を参照ください。

- 1) BIOS 設定画面を表示します。「1-1. BIOS 設定画面の表示」を参照ください。
- 2) 次表設定項目を表示することで、M.2 SSD が接続済みであることがわかります。M.2 SSD を接続している場合に限りです。

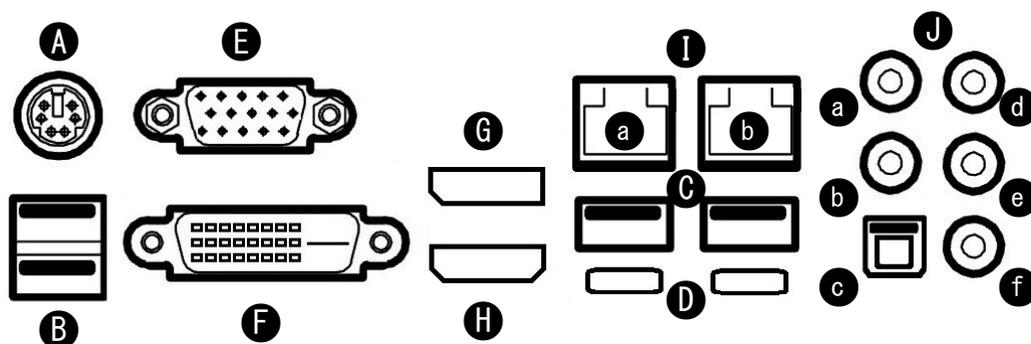
メニュータブ	設定項目 / 詳細設定項目	項目	設定値	説明
Security	Supermicro Security Erase Configuration	HDD Name	ここに表示	※ 19

※ 19: カスタム仕様により、設定項目が「SMCI Security Erase Configuration」と表示される場合があります。

4. 製品のコネクタ

本製品のコネクタやポートについて説明します。

4-1. I/O パネルのコネクタ



	名称 / 規格	説明
A	PS/2	PS/2 キーボード、または PS/2 マウスを接続できます。
B	USB2.0 (Type-A)	× 2 USB 機器を接続できます。
C	USB 10Gbps (USB3.2 Gen2) Type-A	× 2 USB 機器を接続できます。
D	USB 10Gbps (USB3.2 Gen2) Type-C™	× 2 USB 機器を接続できます。 ※ 20
E	VGA	VGA ディスプレイを接続できます。 ※ 21
F	DVI-D	DVI-D ディスプレイを接続できます。 ※ 21
G	DisplayPort™ (1.2)	DisplayPort™ ディスプレイを接続できます。 ※ 21
H	HDMI (2.0)	HDMI ディスプレイを接続できます。 ※ 21
I a	LAN (10/100/1000 Mbps) RJ45	Intel® I219-LM ※ 22
I b	LAN (10/100/1000 Mbps) RJ45	Intel® I210-AT ※ 22
J a	Center / Subwoofer	Realtek ALC888S
J b	Side Speaker Out	Realtek ALC888S
J c	S/PDIF Out	Realtek ALC888S
J d	Line In	Realtek ALC888S
J e	Line Out	Realtek ALC888S
J f	Mic In	Realtek ALC888S

※ 20: USB PD (USB パワーデリバリー)、Alternate Mode (オルタネートモード) には対応しません。

※ 21: Windows においては同時に 3 つを上限に使用 (マルチディスプレイ) できます。複数のディスプレイを接続した状態で BIOS 設定画面を表示すると、表示しないディスプレイが含まれる場合があります。

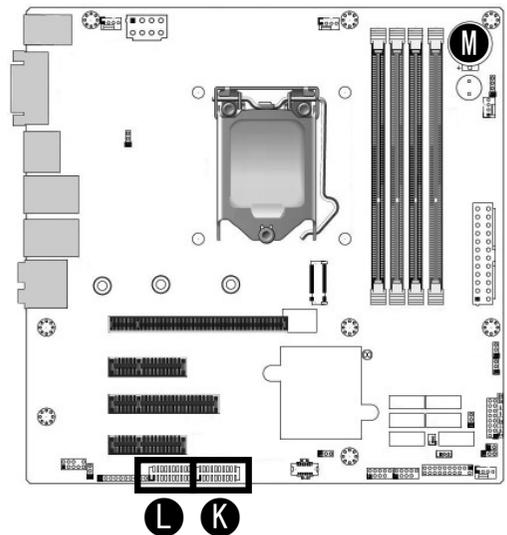
※ 22: Wake On LAN 設定可能。

Windows の場合、2 つの LAN ポートが「イーサネット」、「イーサネット 2」のように表示されます。カスタム仕様により、LAN ポートの表示名が変わる場合があります。



4-2. 内部のコネクタ

本製品の内部のコネクタなどについて説明します。

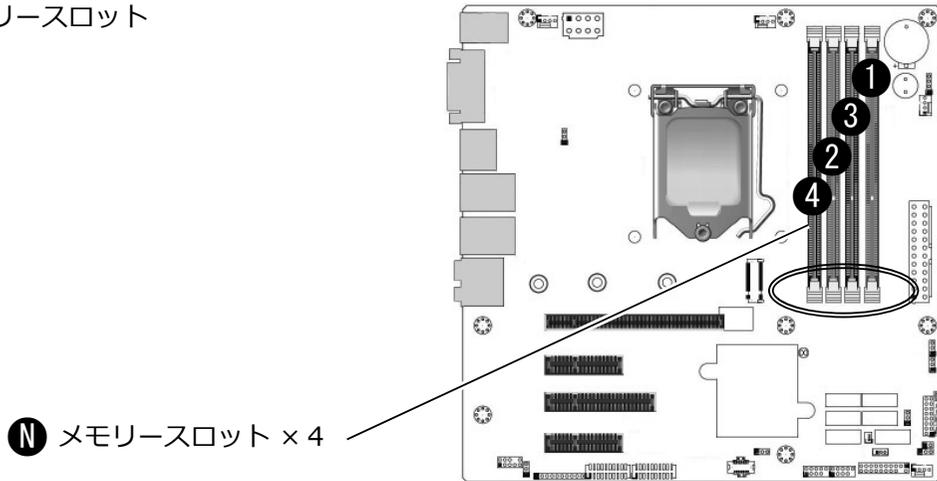


	名称 / 規格	説明
K	シリアル (COM) RS-232C	外部シリアル (COM) ポート (RS-232C) ケーブルを接続できます。 COM1/COM2 ※ 23
L	シリアル (COM) RS-232C	外部シリアル (COM) ポート (RS-232C) ケーブルを接続できます。 COM3/COM4 ※ 23
M	電池ホルダー	リチウム電池が取り付け済みです。コイン型やボタン型と称されることもある一次電池です。リチウムイオン電池 (二次電池) ではないため、充電することはできません。

※ 23: カスタム仕様によっては使用済みです。

外部シリアル (COM) ポートケーブル (オプション) 接続時には拡張スロットを使用します。使用スロット番号 (場所) は、カスタム仕様により異なります。K コネクタと L コネクタは、同じ形状、同じ機能です。このコネクタ以外にもよく似た形状のコネクタがあります。

■メモリスロット



メモリーモジュールの取り付け方法

- 1) 1つだけの場合は①に取り付けます。
- 2) 2つとも同容量の場合は①と②に取り付けます。
- 3) 4つの場合
 - 3-1) すべて同容量の場合はそのまま①～④へ取り付けます。
 - 3-2) 容量が一組（2つ）ごと異なる場合は、①と②に同容量一組（2つ）を③と④に同容量一組（2つ）を取り付けます。
 - 3-3) 容量が異なる場合は、「①、②、③、④」の順に、容量の多いメモリーモジュールを取り付けます。

! ポイント

- ・メモリーモジュールには取り付け向きがあります。スロットの切り欠きに合わせて取り付けます。
- ・メモリスロットの片側のレバー（PCI Express スロットに近い側 ○部）は固定されています。
- ・より良い性能（Dual Channel）を発揮するために、一組（2つ）単位での取り付けを推奨します。
- ・本製品は、上位または下位のデータ転送速度に対応したメモリーモジュールを取り付けることができます。取り付け可能なメモリーモジュールの規格については製品仕様書を参照ください。搭載 CPU や取り付け済みのメモリーモジュールの構成によって、データ転送速度が変わります。

5. トラブルシューティング

本製品の動作がおかしいと感じる場合の、BIOS 設定を説明します。

■ 電源ケーブルを接続しただけで電源が ON (入) になる

「3-1. 商用電源供給開始時に自動的に本製品を起動させる」を参照ください。

■ 勝手に電源が ON (入) になる

「3-2. USB 2.0 ポートによる電源投入を設定する」を参照ください。

■ UPS を接続したところシャットダウン後に再起動してしまう

USB 2.0 ポートへ UPS (無停電電源装置) の信号ケーブルを接続しているのであれば USB 10Gbps (USB 3.2 Gen2) ポートへ接続し直してください。あるいは「3-2. USB 2.0 ポートによる電源投入を設定する」を参照いただき、「Disabled」に設定してください。

■ システムリカバリー後に Windows が起動しない

「2-2. リカバリーディスクによるシステムリカバリー」を参照ください。

■ 拡張ボードが正しく動作しない

「3-3. 拡張スロットと拡張ボードの整合性を調整する」を参照ください。

例えば、お使いの拡張ボードが PCI Express 2.0 x1 仕様で、Slot2 / CPU SLOT5 PCI Express 3.0 x8 に接続しているのであれば、Slot2 / CPU SLOT5 PCI Express 3.0 x8 の Max Link Speed 項の設定値を [Auto] から [Gen2] へ変更してみたり、Max Link Width 項の設定値を [Auto] から [Force X1] へ変更してみる、などです。

■ 再起動後に限って拡張ボードを認識しない

拡張ボードの設計仕様が古い、あるいは仕様外のため、BIOS 設定では回避できない可能性があります。

例えば、お使いの拡張ボードを Slot0 / CPU SLOT7 PCI Express 3.0 x16 や Slot2 / CPU SLOT5 PCI Express 3.0 x8 に接続しているのであれば、Slot1 / PCH SLOT6 PCI Express 3.0 x4 あるいは Slot3 / PCH SLOT4 PCI Express 3.0 x4 に接続し直してみてください。

■ Wake On LAN が機能しない

BIOS 設定は不要です。

Windows にインストールされている「Intel(R) PROSet Adapter Configuration Utility」(管理者権限で実行)で Wake On LAN を有効に設定します。加えて、Windows のシステム設定で高速スタートアップを無効に設定します。設定後、Windows を正しくシャットダウンすることで準備が整います。設定後に主電源(メインスイッチ)を切断した場合は、Wake On LAN の機能が解除されます。解除後であっても、もう一度 Windows を正しくシャットダウンすることで、再び準備が整います。

「Intel(R) PROSet Adapter Configuration Utility」において、該当する LAN ポートが表示されなかったり、サポート外(Not Supported)と表示される場合には、Wake On LAN 機能をお使いいただけません。これは「Intel(R) PROSet Adapter Configuration Utility」の仕様です。

HDMI、High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

インテル、Intel はアメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

Supermicro は Super Micro Computer, Inc. またはその子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

USB Type-C and USB-C are trademarks of USB Implementers Forum

Windows はマイクロソフト企業グループの商標です。

その他、本書に記載されている商品名 / 社名などは一般に商標ならびに登録商標です。